

ユニバーサルデザインについて

【調査の目的】

福岡県では、すべての人々が地域において安全・安心・快適に生活できるよう、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくり、仕組みづくりを推進しています。

一方、2020年東京パラリンピック競技大会は、共生社会の実現に向けて人々の心の在り方を変える絶好の機会であることから、国では平成29年に「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を策定し、「心のバリアフリー」と「ユニバーサルデザインの街づくり」の取組を展開しています。

今後の本県におけるユニバーサルデザインの取組等の参考とするため、皆様のご意見をお聴かせいただきたいと思います。

(人づくり・県民生活部社会活動推進課)

※ ユニバーサルデザインとは

障がいの有無や年齢、性別、国籍等の違いにかかわらず、すべての人が利用しやすい、まちづくり、仕組みづくりなどを行おうとする考え方のことです。

※ 心のバリアフリーとは

県民一人一人が多様性を認め合い、相手の立場に立って考え、思いやりのある行動ができることをいいます。

調査概要》

- 実施期間 令和元年10月18日～28日
- モニター数 400人、回答数 361人、回収率 90.3%
- 回答者構成

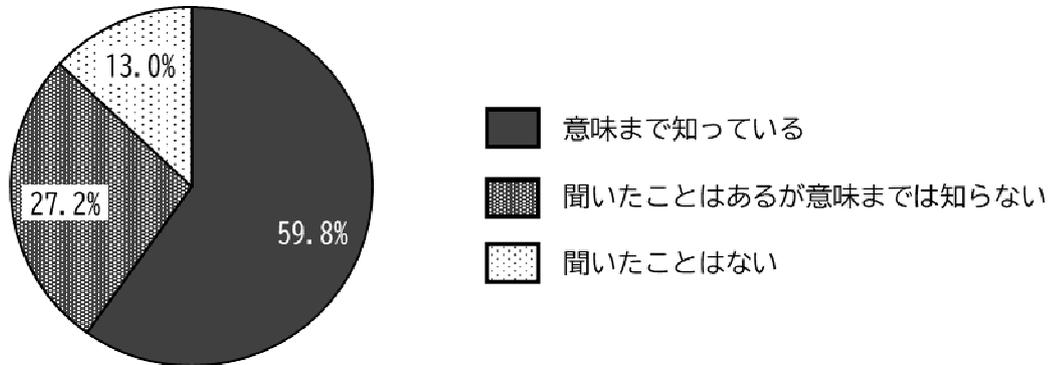
項目	計		北九州	福岡	筑後	筑豊
	人数(人)	構成比				
総数	人数	361	96	182	51	32
	構成比		26.6%	50.4%	14.1%	8.9%
性別	女性	222	58	108	31	25
	男性	138	38	73	20	7
	その他	1	0	1	0	0
年代別	20代以下	60	17	30	9	4
	30代	87	22	41	15	9
	40代	87	25	41	11	10
	50代	54	13	30	6	5
	60代	51	15	23	9	4
	70代以上	22	6.1%	4	17	1

- 回答結果の注意点
 - ・集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
 - ・複数回答を要する設問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。

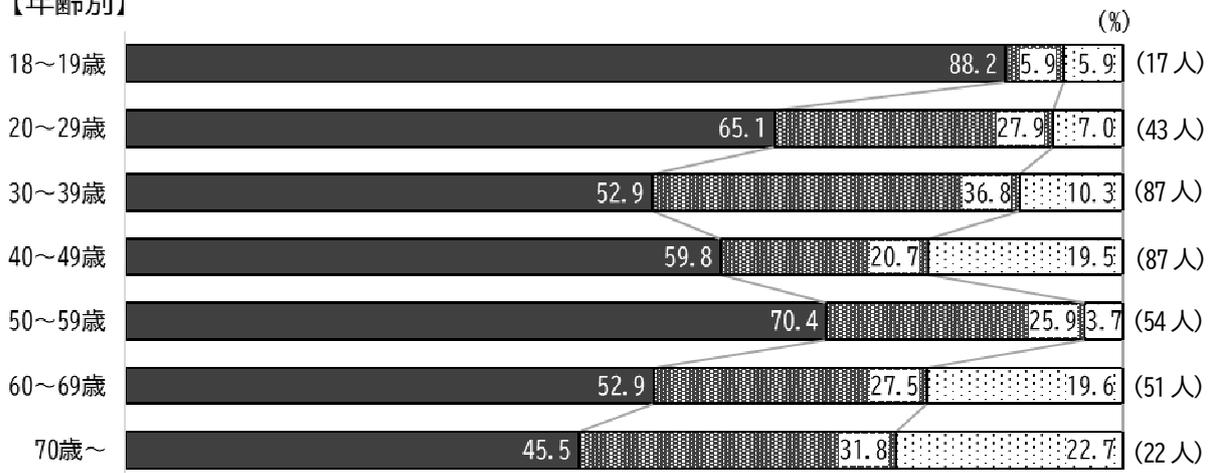
問1》 「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。(選択は1つのみ)

(N=361)

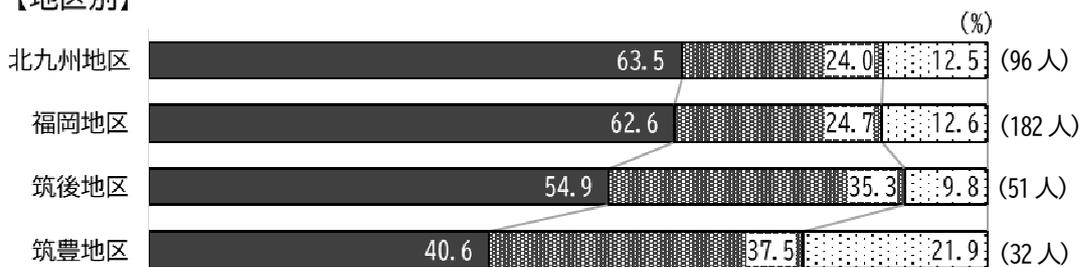
意味まで知っている	59.8%	216人
聞いたことはあるが意味までは知らない	27.2%	98人
聞いたことはない	13.0%	47人



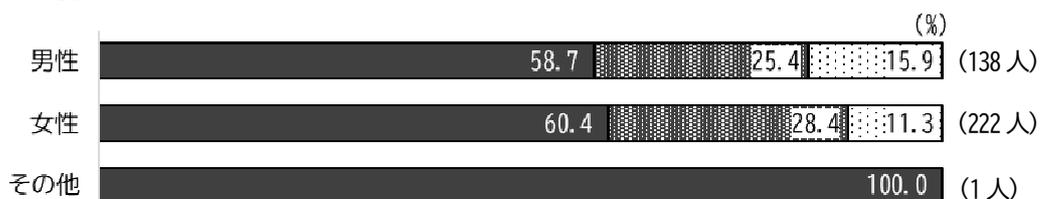
【年齢別】



【地区別】



【性別】

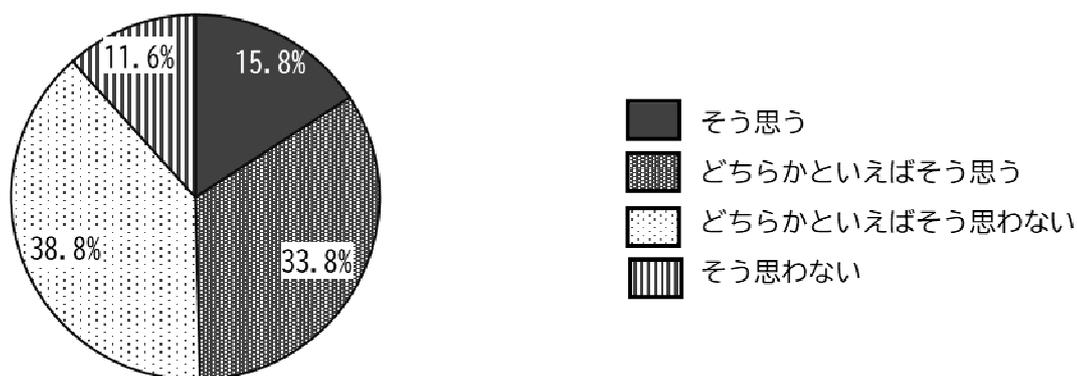


- 全体では、約 90%の方がユニバーサルデザインという言葉を知ったことがあり、うち約 60%の方が意味まで理解している。
- すべての年齢において、意味まで理解している割合が高く、中でも 10 代の理解度は突出して高い。

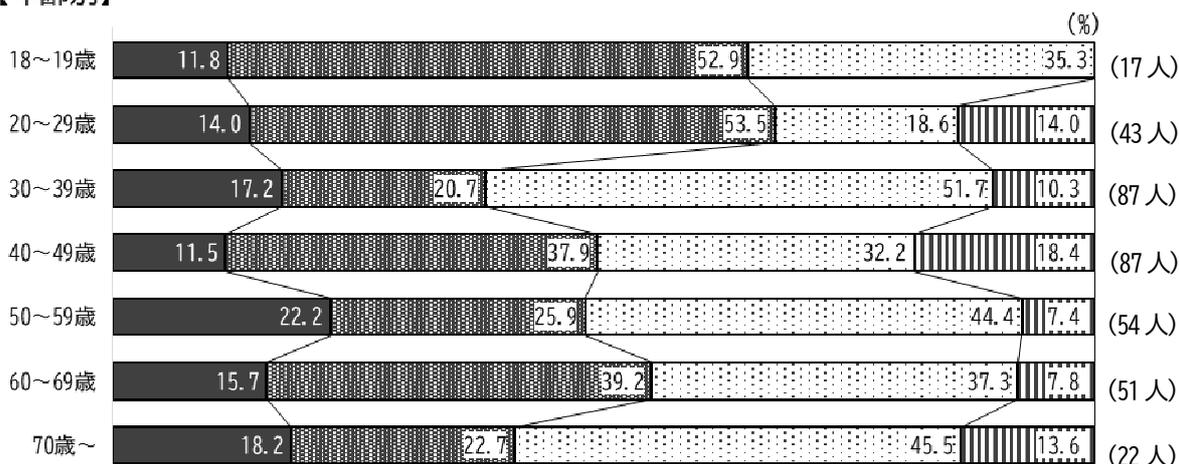
問2》ユニバーサルデザインのまちづくりとは、障がいの有無や年齢、性別、国籍等の違いにかかわらず、誰もが暮らしやすいまちを目指すものです。あなたの住む地域は、誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると思いますか。(選択は1つのみ)

(N=361)

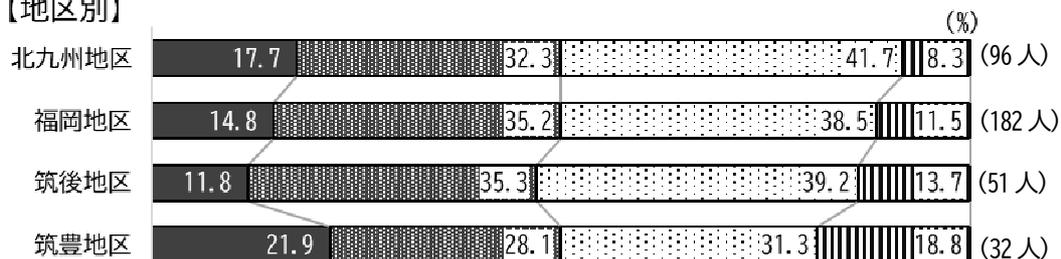
そう思う	15.8%	57人
どちらかといえばそう思う	33.8%	122人
どちらかといえばそう思わない	38.8%	140人
そう思わない	11.6%	42人



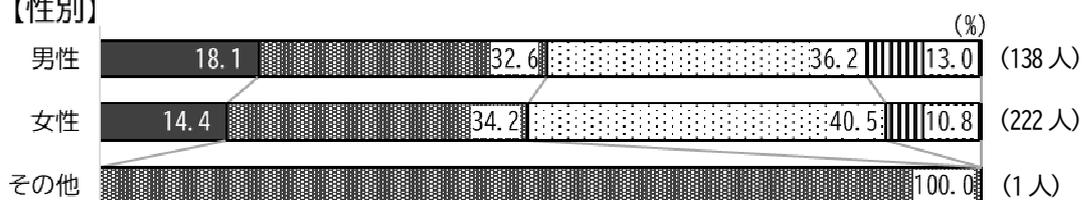
【年齢別】



【地区別】



【性別】



○ 全体で、ユニバーサルデザインのまちづくりが進んでいる(そう思う、どちらかといえばそう思う)と答えた割合と、進んでいない(そう思わない、どちらかといえばそう思わない)と答えた割合は、どちらも50%程度を占め、地域差、性別差はほとんどみられなかった。

○ 年齢別では、進んでいると答えた割合は10代、20代で高かった。

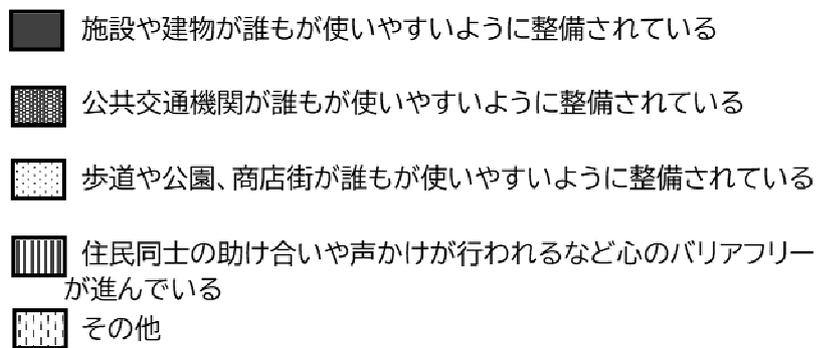
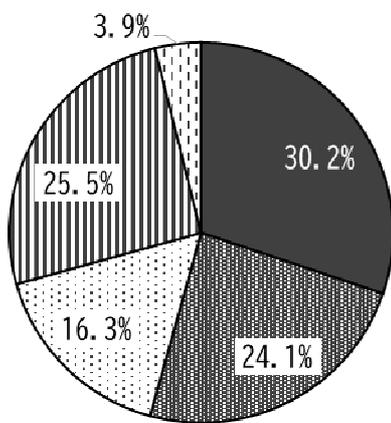
問3》 誰もが暮らしやすいまちづくりのためには、どのようなことが達成できていることが一番重要であると考えますか。(選択は1つのみ)

(N=361)

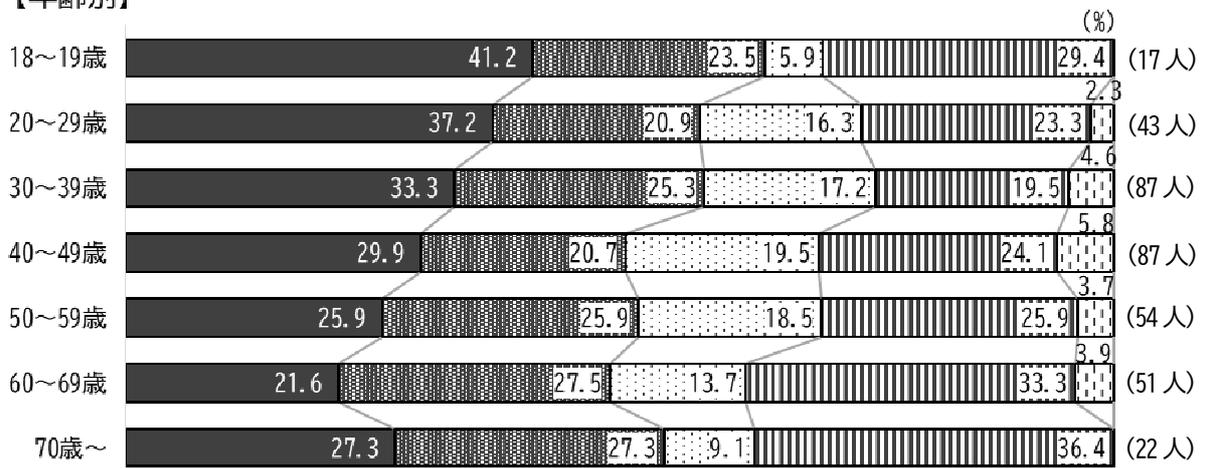
施設や建物が誰もが使いやすいように整備されている	30.2%	109人
公共交通機関が誰もが使いやすいように整備されている	24.1%	87人
歩道や公園、商店街が誰もが使いやすいように整備されている	16.3%	59人
住民同士の助け合いや声かけが行われるなど心のバリアフリーが進んでいる	25.5%	92人
その他	3.9%	14人

その他(抜粋)

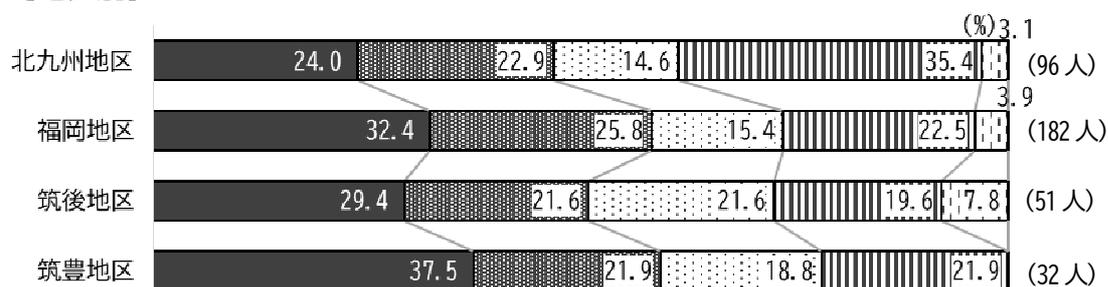
- ・すべてが相まって本当に住みやすい街になると思う。
- ・興味ないし、関係ない。



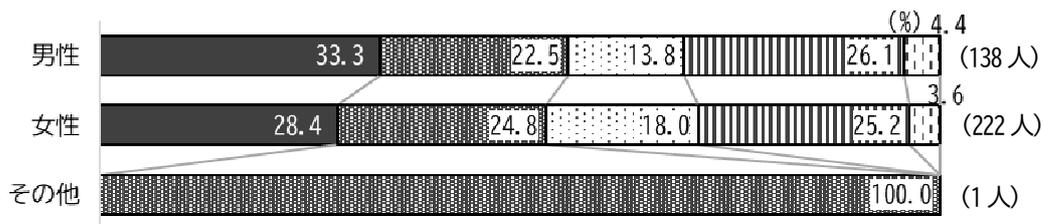
【年齢別】



【地区別】



【性別】



- 全体では、施設や建物が誰もが使いやすいように整備されていることが重要と答えた割合が30%程度で最も高く、年齢が高くなるにつれ、その割合は減少傾向にある。
- 次に、ソフト面である心のバリアフリーが重要と答えた割合が25%程度を占めた。

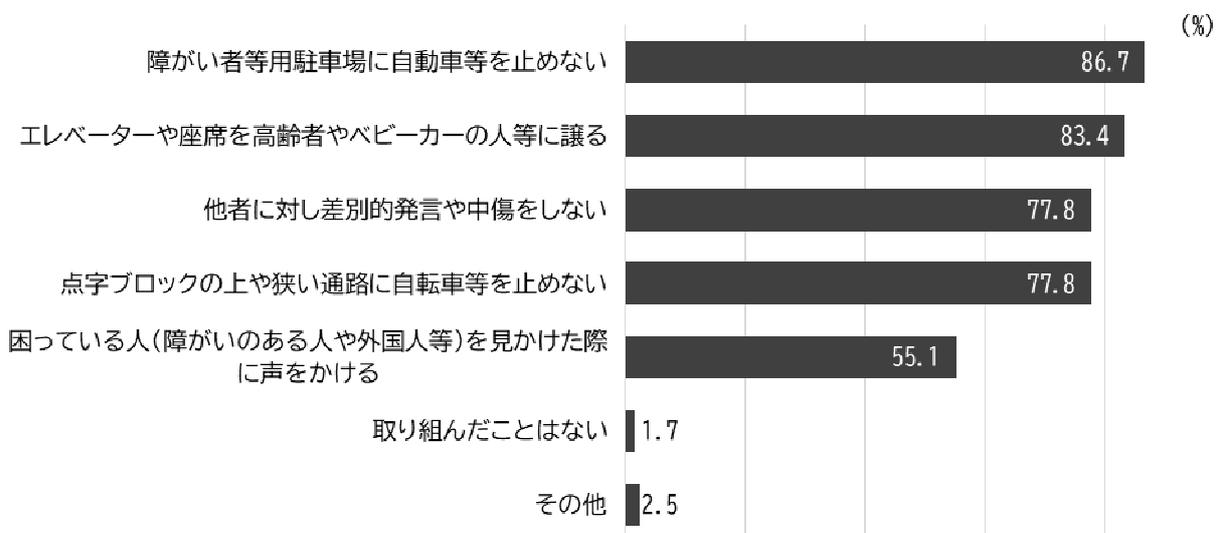
問4) ユニバーサルデザインのまちづくりを進めるために必要な「心のバリアフリー」を実現するためには、県民一人一人の、他者に対する気配りや思いやりのある自発的な行動が欠かせません。心のバリアフリーの取組について、これまでに実践したことがありますか。(複数選択可)

(N=361 複数選択可 回答件数1,390)

障がい者等用駐車場に自動車等を止めない	86.7%	313人
エレベーターや座席を高齢者やベビーカーの人等に譲る	83.4%	301人
他者に対し差別的発言や中傷をしない	77.8%	281人
点字ブロックの上や狭い通路に自転車等を止めない	77.8%	281人
困っている人(障がいのある人や外国人等)を見かけた際に声をかける	55.1%	199人
取り組んだことはない	1.7%	6人
その他	2.5%	9人

その他(抜粋)

- ・家の近くの歩道で、邪魔になる雑草や落ち葉の除去を行っている。
- ・我が子に差別のない行動を大事にする話をする。

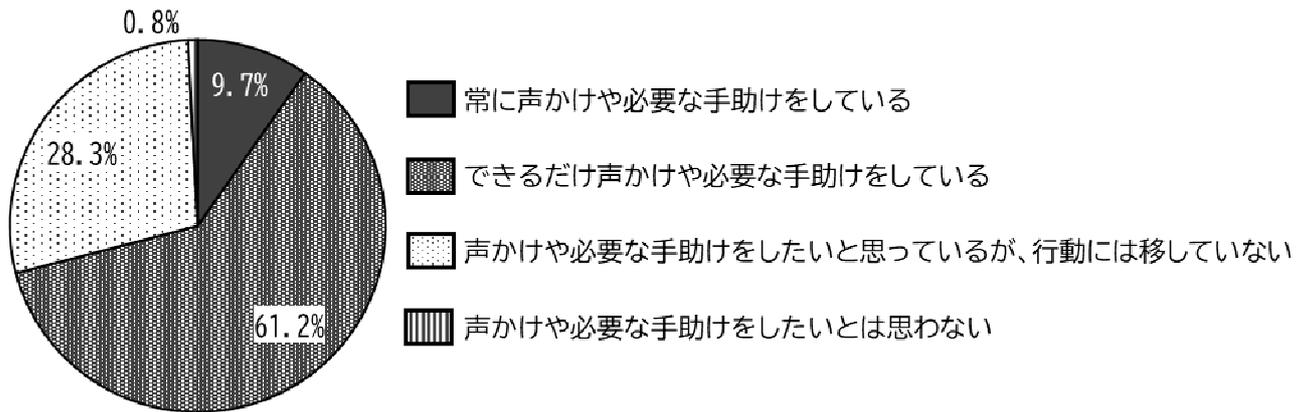


- 取組として、障がい者等用駐車場に自動車等を止めないよう行動している方は、約90%を占め、最も高かった。
- 一方で、取り組んだことがない方は、2%程度存在した。

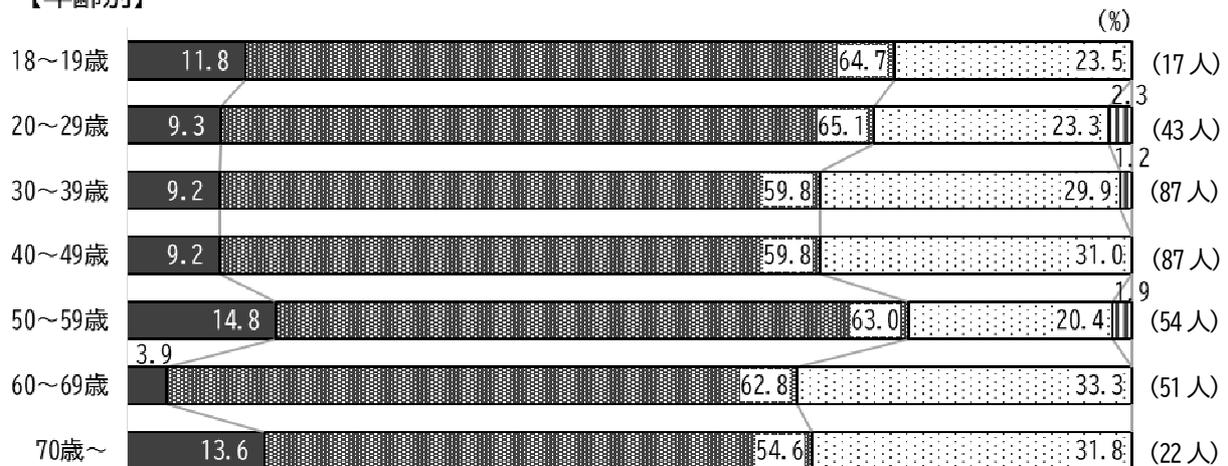
問5) 「心のバリアフリー」を実現するためには、自発的な行動が必要です。あなたは、路上や公共交通機関の中で障がいのある人や困っている人を見かけた際に、声かけや必要な手助けを行っていますか。(選択は1つのみ)

(N=361)

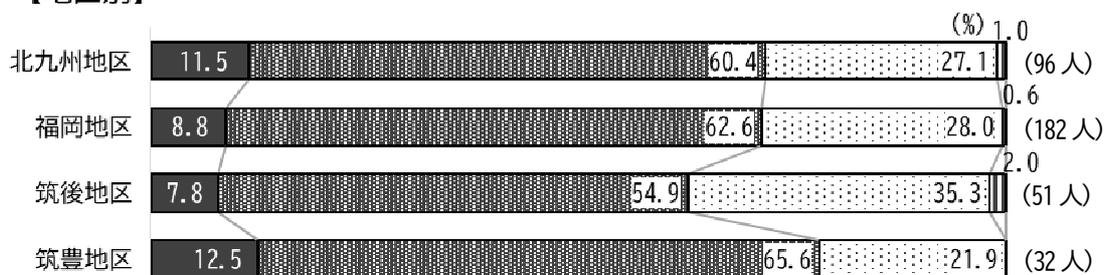
常に声かけや必要な手助けをしている	9.7%	35人
できるだけ声かけや必要な手助けをしている	61.2%	221人
声かけや必要な手助けをしたいと思っているが、行動には移していない	28.3%	102人
声かけや必要な手助けをしたいとは思わない	0.8%	3人



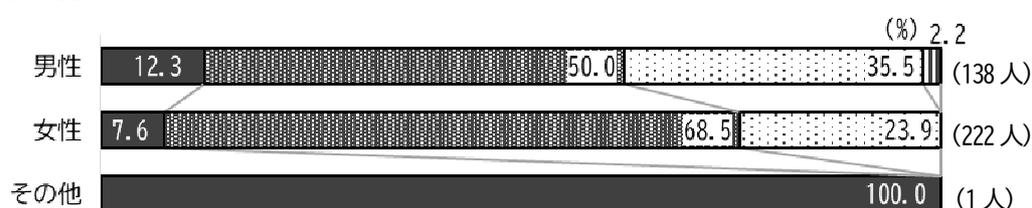
【年齢別】



【地区別】



【性別】



問5-2》 (問5で「3」又は「4」を回答した方)

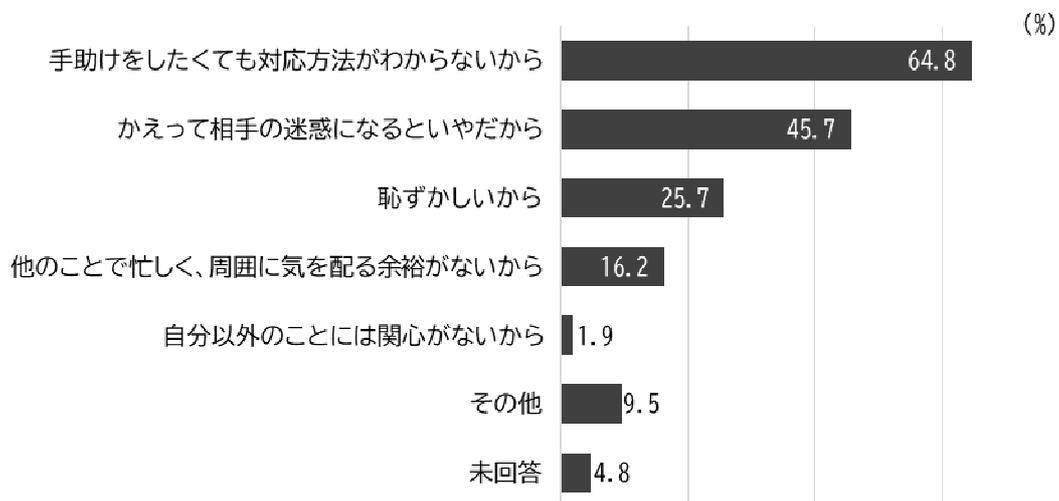
声かけや必要な手助けをしない理由についてあてはまるものを選択してください。(複数選択可)

(N=105 複数選択可 回答件数 177)

手助けをしたくても対応方法がわからないから	64.8%	68人
かえって相手の迷惑になるといやだから	45.7%	48人
恥ずかしいから	25.7%	27人
他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから	16.2%	17人
自分以外のことには関心がないから	1.9%	2人
その他	9.5%	10人
未回答	4.8%	5人

その他(抜粋)

- ・手助けしたい気持ちはあるが、何かあったら怖いから(怪我をさせて賠償責任など)。
- ・障がいのある人や困っている人を見かけないから。



- 全体では、常に行動している方は約10%、できるだけ行動している方は約60%と、70%程度の方が行動に移せているのに対し、約30%の方は行動に移せていない。
- 男性に比べて女性の方が、行動に移せている傾向がある。
- 行動に移せていない理由としては、手助けをしたくても対応方法がわからないからが約65%を占め最も高く、行動の妨げとなっている。

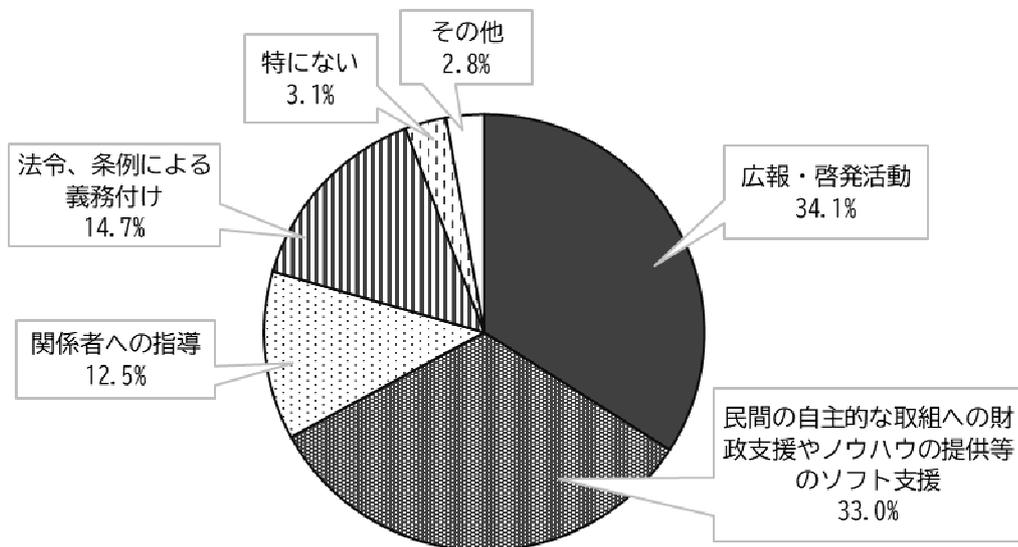
問6》 「心のバリアフリー」を実現するために、行政に対して何を期待しますか。(選択は1つのみ)

(N=361)

広報・啓発活動	34.1%	123人
民間の自主的な取組への財政支援やノウハウの提供等のソフト支援	33.0%	119人
関係者への指導	12.5%	45人
法令、条例による義務付け	14.7%	53人
特にない	3.1%	11人
その他	2.8%	10人

その他（抜粋）

- ・幼少期、小・中学校からの教育。
- ・何が一番効果的か分からない。



○ 行政に期待することとしては、広報・啓発活動が最も高く、次いで民間等への財政支援やソフト支援となっている。